

技能実習生 期待の人材来ない 農業・建設困った コロナで入国規制

2020年4月27日

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、海外からの入国規制が厳しくなり、技能実習生などの受け入れに支障が出ている。十勝管内でも農業や建設の現場で「外国人材」を活用してきた経緯があり、予定していた人手が確保できず影響が広がっている。

「戦力として期待していただけに計画が狂ってしまった」。音更町で酪農、畑作の複合経営を行う阿部農場の阿部伸一郎代表はこうこぼす。

阿部農場では3月上旬、30代の中国人女性を技能実習生として受け入れる予定だった。この女性は管内の牧場で実習経験があり、経産牛80頭を含む約130頭の管理全般を任せる考えだった。阿部さんは「終息するまでは、スマート農業で省力化できる畑作に注力する」と話す。

影響は建設業界にも及んでいる。鉄筋工事業の東圧（帯広市）では、5月採用予定のベトナム人エンジニア2人の入国のめどが立たないほか、夏に来日するベトナム人技能実習生2人の受け入れも不透明な状態に。丹羽理志社長は「繁忙期の夏場には来てほしい。来られない実習生の気持ちを考えてもかわいそうだ」と話す。

道鉄筋業協同組合十勝支部の山田賢悟支部長によると、管内では他にもインドネシアなど外国人材が入国できない状態が見受けられる。「重要な戦力だけに、現場への影響も懸念される」とする。

政府は4月に入り、73カ国・地域を入国拒否の対象としており、今後ロシアなど14カ国も追加される方針。農業分野では中国人を中心に技能実習生の2,000人近くが来日できていないとされている。

農水省は新型コロナによる失業者が、農業現場で働く

ことができるよう支援する方針だが、生産現場からは「現実的に入ってくる人手はいるのか」との声が漏れている。



外国人材が入国できない影響が、農業をはじめとした管内の産業に広がっている（写真は阿部農場）

＜外国人技能実習制度＞

諸外国の人材を一定期間受け入れ、技能・知識を習得してもらう制度。途上国への技術支援が目的だが、国内の人員不足を背景に多くの産業で事実上の労働力として役割を果たしている。十勝では2018年に農業で478人、建設関連で63人など599人を受け入れている。

旬のアスパラ送れない ゆうパック コロナで停止 九州・沖縄向け「レタスも心配」

2020年5月12日

新型コロナウイルスの拡大に伴う航空便の運休を受け、収穫期を迎えた十勝産のアスパラガスが、九州・沖縄方面へ発送できない状態となっている。九州・沖縄行きの発送手段が受け入れ停止や遅延となっているため。今後、他の作物の輸送に影響する可能性もあり、関係者は状況を注視している。

アスパラ産地の清水町内では昨年産で36トン収穫。今年も5～6月中旬に収穫、7～8割ほどは道内の市場向けで、道外を含む個人向けは5月中旬から、日本郵便の「ゆうパック」で発送する予定だった。

ところが日本郵便は4月からチルド・冷凍のゆうパックについて、他都道府県から沖縄県へ運ぶ荷物の引き受けを停止。航空便の運休により、道内から九州方面への配達も、通常より2～4日程度の遅延が見込まれる状態となった。

J A十勝清水町ではゆうパックの引き受け停止・配達遅延を受け、九州・沖縄向けのアスパラについては、帯広や札幌の市場向けにシフトする予定だ。

同J A農産部の担当者は「1～2日発送が遅れると鮮度に影響する。（九



選別作業が進められる清水町産のアスパラガス。九州・沖縄向けが出荷できなくなっている